

○ 本校の概要

◎学校教育目標 ～夢をもって 未来をきり拓く 中萩中の子ども～
・よく考える子(学びの楽しさを味わえる学習)…主体的対話的で深い学びの充実と学力向上 (学習規律の定着、指導技術の向上、体験学習、ICTの活用、外
・思いやりのある子(心の教育の充実)…いじめ、不登校への未然防止、自己肯定感、有用感もてる指導、あいさつ、言語環境の充実、異学年交流、キャリア
・たくましい子(健康の増進・体力の向上)…体力向上、食に関する指導
校内研究主題: 自分の考えをもち、伝えようとする児童の育成～物語文における児童の思考を促すための工夫～
おおたの未来づくり推進校

目指す学校像: チーム中萩中の力を結集した
子どもが主役の楽しい学校
○一人一人の子どもが生き生きと学校生活を楽しめる学校
○子ども教職員も共に学び合う学校
○保護者・地域との連携を大切にし、信頼される学校

本校の特色ある教育活動
①主体的・対話的で深い学びの充実と学力の向上
②豊かな心の育成
③コミュニティスクール中萩中を活かした教育

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄	
ブラン 1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	児童アンケート「授業では自分の考えを伝えたり、友達の話の聞いたり、友達と話したりしている。」の肯定的回答(そう思う、思う)が 4:8割以上 3:7割以上 2:6割以上 1:6割未満	4: 3: 2: 1:	【これまでの取組】 ・外国語教育の研修を全教員で行い、担任がITとして指導する方法や外国語教育指導員との連携の工夫について教員が理解を深めた。またTGGIに行き、児童が1日中英語で過ごす体験を行った。 ・「自分の考えをもち、伝えようとする児童の育成」を研究テーマとした国語の校内研究を行い、児童の思考を促す研究を深めた。また「おおたの未来づくり」の推進校としてものづくり企業や商店街などの地域の方々を講師と招くなど体験的な学習の場を多く取り入れた。 ・ICT研修や中堅教員が若手教員に指導するOJT研修を通して全教員がICTを活用しながら児童が分かりやすい授業づくりを行っている。 ・車いすラグビーの選手と交流を通して、障がい者理解教育を推進した。 ・なわとびやマラソン週間や全校統一の縄跳びカードの配布を通して体力の向上を図った。 【今後の改善策】 ・教師主導の授業展開ではなく、全国的にも課題とされている「主体的・対話的な深い学び」がより充実するように教員の研修の充実を図っていく。 ・令和7年度より始まる新教科「おおたの未来」に向けた指導案を作成していく。	A 5	おおたの未来づくりを生かした体験活動は、授業だけでは体験できない、いろいろなことに取り組みでいたと思います。今後が楽しみです。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたの未来づくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	4:8割以上 3:7割以上 2:6割以上 1:6割未満	4: 3: 2: 1:	【今後の取組】 ・外国語教育の研修を全教員で行い、担任がITとして指導する方法や外国語教育指導員との連携の工夫について教員が理解を深めた。またTGGIに行き、児童が1日中英語で過ごす体験を行った。 ・「自分の考えをもち、伝えようとする児童の育成」を研究テーマとした国語の校内研究を行い、児童の思考を促す研究を深めた。また「おおたの未来づくり」の推進校としてものづくり企業や商店街などの地域の方々を講師と招くなど体験的な学習の場を多く取り入れた。 ・ICT研修や中堅教員が若手教員に指導するOJT研修を通して全教員がICTを活用しながら児童が分かりやすい授業づくりを行っている。 ・車いすラグビーの選手と交流を通して、障がい者理解教育を推進した。 ・なわとびやマラソン週間や全校統一の縄跳びカードの配布を通して体力の向上を図った。 【今後の改善策】 ・教師主導の授業展開ではなく、全国的にも課題とされている「主体的・対話的な深い学び」がより充実するように教員の研修の充実を図っていく。 ・令和7年度より始まる新教科「おおたの未来」に向けた指導案を作成していく。	B 3	子どもたちの指導、接し方など、先生方の方向性がより一致していくよう、大変ですが意見交換などをすすめるよう望んでいます。
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4	肯定的意見 87.5%	4: 3: 2: 1:	【今後の取組】 ・外国語教育の研修を全教員で行い、担任がITとして指導する方法や外国語教育指導員との連携の工夫について教員が理解を深めた。またTGGIに行き、児童が1日中英語で過ごす体験を行った。 ・「自分の考えをもち、伝えようとする児童の育成」を研究テーマとした国語の校内研究を行い、児童の思考を促す研究を深めた。また「おおたの未来づくり」の推進校としてものづくり企業や商店街などの地域の方々を講師と招くなど体験的な学習の場を多く取り入れた。 ・ICT研修や中堅教員が若手教員に指導するOJT研修を通して全教員がICTを活用しながら児童が分かりやすい授業づくりを行っている。 ・車いすラグビーの選手と交流を通して、障がい者理解教育を推進した。 ・なわとびやマラソン週間や全校統一の縄跳びカードの配布を通して体力の向上を図った。 【今後の改善策】 ・教師主導の授業展開ではなく、全国的にも課題とされている「主体的・対話的な深い学び」がより充実するように教員の研修の充実を図っていく。 ・令和7年度より始まる新教科「おおたの未来」に向けた指導案を作成していく。	C 0	特に体験活動の充実により、校外、異年代との関わりから学ぶ機会を多く提供していたと思います。
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	4: 3: 2: 1:	【今後の取組】 ・外国語教育の研修を全教員で行い、担任がITとして指導する方法や外国語教育指導員との連携の工夫について教員が理解を深めた。またTGGIに行き、児童が1日中英語で過ごす体験を行った。 ・「自分の考えをもち、伝えようとする児童の育成」を研究テーマとした国語の校内研究を行い、児童の思考を促す研究を深めた。また「おおたの未来づくり」の推進校としてものづくり企業や商店街などの地域の方々を講師と招くなど体験的な学習の場を多く取り入れた。 ・ICT研修や中堅教員が若手教員に指導するOJT研修を通して全教員がICTを活用しながら児童が分かりやすい授業づくりを行っている。 ・車いすラグビーの選手と交流を通して、障がい者理解教育を推進した。 ・なわとびやマラソン週間や全校統一の縄跳びカードの配布を通して体力の向上を図った。 【今後の改善策】 ・教師主導の授業展開ではなく、全国的にも課題とされている「主体的・対話的な深い学び」がより充実するように教員の研修の充実を図っていく。 ・令和7年度より始まる新教科「おおたの未来」に向けた指導案を作成していく。	D 0		
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4: 3: 2: 1:	【今後の取組】 ・外国語教育の研修を全教員で行い、担任がITとして指導する方法や外国語教育指導員との連携の工夫について教員が理解を深めた。またTGGIに行き、児童が1日中英語で過ごす体験を行った。 ・「自分の考えをもち、伝えようとする児童の育成」を研究テーマとした国語の校内研究を行い、児童の思考を促す研究を深めた。また「おおたの未来づくり」の推進校としてものづくり企業や商店街などの地域の方々を講師と招くなど体験的な学習の場を多く取り入れた。 ・ICT研修や中堅教員が若手教員に指導するOJT研修を通して全教員がICTを活用しながら児童が分かりやすい授業づくりを行っている。 ・車いすラグビーの選手と交流を通して、障がい者理解教育を推進した。 ・なわとびやマラソン週間や全校統一の縄跳びカードの配布を通して体力の向上を図った。 【今後の改善策】 ・教師主導の授業展開ではなく、全国的にも課題とされている「主体的・対話的な深い学び」がより充実するように教員の研修の充実を図っていく。 ・令和7年度より始まる新教科「おおたの未来」に向けた指導案を作成していく。			
ブラン 2 児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます。	児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます。	大田区学力効果測定をもとに児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	4:児童の割合 8割以上 3:児童の割合 7割以上 2:児童の割合 6割以上 1:児童の割合 6割未満	4: 3: 2: 1:	【これまでの取組】 ・子どもたちはタブレットドリル(算数ステップ学習電子版)を意欲的に取り組んでいた。 ・学習補助員による放課後補習や土曜補習を計画的に行っていた。 ・大田区学力効果測定の結果をもとにして授業改善推進プランを作成し、授業改善に努めることができた。 ・生活指導面や学習環境を整え、学校全体が共通ルールをもちながら、生活指導面や学習規律を守らせることに努めた。 ・校内研究は国語科の「物語文における児童の思考を促すための工夫」を副主題とした研究を行い、年間6回の授業研究を行なった。 【今後の改善策】 ・次年度は今年度までの研究をふまえて、令和7年度から区内全公立学校で実施される「おおたの未来づくり」の研究推進校として、意図的系統的カリキュラムへと発展させていく。	A 6	何回か国語の校内研究を見学させていただきました。子どもたちが伸び伸びと自分の意見を伝えていて、主体的に取り組んでいると感じました。先生方の授業の準備にも頭が下がりました。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	4:児童の割合 8割以上 3:児童の割合 7割以上 2:児童の割合 6割以上 1:児童の割合 6割未満	4: 3: 2: 1:	【これまでの取組】 ・子どもたちはタブレットドリル(算数ステップ学習電子版)を意欲的に取り組んでいた。 ・学習補助員による放課後補習や土曜補習を計画的に行っていた。 ・大田区学力効果測定の結果をもとにして授業改善推進プランを作成し、授業改善に努めることができた。 ・生活指導面や学習環境を整え、学校全体が共通ルールをもちながら、生活指導面や学習規律を守らせることに努めた。 ・校内研究は国語科の「物語文における児童の思考を促すための工夫」を副主題とした研究を行い、年間6回の授業研究を行なった。 【今後の改善策】 ・次年度は今年度までの研究をふまえて、令和7年度から区内全公立学校で実施される「おおたの未来づくり」の研究推進校として、意図的系統的カリキュラムへと発展させていく。	B 2	子どもたちが学び、またそれを評価され、さらに意欲が持てるよう、働きかけていっていただきたい。
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4	4:児童の割合 8割以上 3:児童の割合 7割以上 2:児童の割合 6割以上 1:児童の割合 6割未満	4: 3: 2: 1:	【これまでの取組】 ・子どもたちはタブレットドリル(算数ステップ学習電子版)を意欲的に取り組んでいた。 ・学習補助員による放課後補習や土曜補習を計画的に行っていた。 ・大田区学力効果測定の結果をもとにして授業改善推進プランを作成し、授業改善に努めることができた。 ・生活指導面や学習環境を整え、学校全体が共通ルールをもちながら、生活指導面や学習規律を守らせることに努めた。 ・校内研究は国語科の「物語文における児童の思考を促すための工夫」を副主題とした研究を行い、年間6回の授業研究を行なった。 【今後の改善策】 ・次年度は今年度までの研究をふまえて、令和7年度から区内全公立学校で実施される「おおたの未来づくり」の研究推進校として、意図的系統的カリキュラムへと発展させていく。	C 0	学校公開等で、主体的な学びの実践を見ることができました。補習の内容とニーズについて、情報交換のうえで、PTAとしてできることがあるか検討したいと考えます。
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	4:児童の割合 8割以上 3:児童の割合 7割以上 2:児童の割合 6割以上 1:児童の割合 6割未満	4: 3: 2: 1:	【これまでの取組】 ・子どもたちはタブレットドリル(算数ステップ学習電子版)を意欲的に取り組んでいた。 ・学習補助員による放課後補習や土曜補習を計画的に行っていた。 ・大田区学力効果測定の結果をもとにして授業改善推進プランを作成し、授業改善に努めることができた。 ・生活指導面や学習環境を整え、学校全体が共通ルールをもちながら、生活指導面や学習規律を守らせることに努めた。 ・校内研究は国語科の「物語文における児童の思考を促すための工夫」を副主題とした研究を行い、年間6回の授業研究を行なった。 【今後の改善策】 ・次年度は今年度までの研究をふまえて、令和7年度から区内全公立学校で実施される「おおたの未来づくり」の研究推進校として、意図的系統的カリキュラムへと発展させていく。	D 0	
		子供自らが主体的に学習に取り組む態度を身に付けさせる。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	4:児童の割合 8割以上 3:児童の割合 7割以上 2:児童の割合 6割以上 1:児童の割合 6割未満	4: 3: 2: 1:	【これまでの取組】 ・子どもたちはタブレットドリル(算数ステップ学習電子版)を意欲的に取り組んでいた。 ・学習補助員による放課後補習や土曜補習を計画的に行っていた。 ・大田区学力効果測定の結果をもとにして授業改善推進プランを作成し、授業改善に努めることができた。 ・生活指導面や学習環境を整え、学校全体が共通ルールをもちながら、生活指導面や学習規律を守らせることに努めた。 ・校内研究は国語科の「物語文における児童の思考を促すための工夫」を副主題とした研究を行い、年間6回の授業研究を行なった。 【今後の改善策】 ・次年度は今年度までの研究をふまえて、令和7年度から区内全公立学校で実施される「おおたの未来づくり」の研究推進校として、意図的系統的カリキュラムへと発展させていく。		
ブラン 3 子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他者の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他者の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守るようとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	4:児童の割合 8割以上 3:児童の割合 7割以上 2:児童の割合 6割以上 1:児童の割合 6割未満	4: 3: 2: 1:	【これまでの取組】 ・生活指導夕会を活用し、教員が子ども一人一人をよく見て、小さい変化に気づけた。 ・問題が起きた時には、即座にいじめ防止対策委員会を開き、組織的な取組を行った。 ・配慮を要する児童に対しては、月1度校内委員会を実施したり、毎週生活指導夕会を開催し、教職員で共通理解を図ったりして改善するよう組織的な取組を行った。 ・学校生活調査等を活用し、児童理解に努め、集団の状況と一人一人の子どもの様子を把握する。 ・生活指導主任を中心に、迅速に教職員で情報を共有し組織的に生活指導改善を図った。 ・不登校の児童が学校に来れるように教室や人の配置を行い、不登校の解消がみられた児童もいた。 【今後の改善策】 ・自己に否定的な気持ちの児童が37.2%存在する。自己肯定感を高めるための具体的な計画をたてていく。 ・いじめ防止基本方針を見直し、いじめ見逃しゼロへの取組を継続する。 ・問題行動による学習妨害や暴力行為に対して組織的な解決が迅速にできるように努める。	A 4	自己肯定感が高い子どもと、低い子どもに開きがあるのかなと感じました。自分のことが大好きな子は、本当に大好きそうだし、逆にひっこみずきでいてもらいたくないと思う子どももいる気がします。目立たない子の良いところに着目して、それを引き出してあげられると良いのかなと思いました。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	4:児童の割合 8割以上 3:児童の割合 7割以上 2:児童の割合 6割以上 1:児童の割合 6割未満	4: 3: 2: 1:	【これまでの取組】 ・生活指導夕会を活用し、教員が子ども一人一人をよく見て、小さい変化に気づけた。 ・問題が起きた時には、即座にいじめ防止対策委員会を開き、組織的な取組を行った。 ・配慮を要する児童に対しては、月1度校内委員会を実施したり、毎週生活指導夕会を開催し、教職員で共通理解を図ったりして改善するよう組織的な取組を行った。 ・学校生活調査等を活用し、児童理解に努め、集団の状況と一人一人の子どもの様子を把握する。 ・生活指導主任を中心に、迅速に教職員で情報を共有し組織的に生活指導改善を図った。 ・不登校の児童が学校に来れるように教室や人の配置を行い、不登校の解消がみられた児童もいた。 【今後の改善策】 ・自己に否定的な気持ちの児童が37.2%存在する。自己肯定感を高めるための具体的な計画をたてていく。 ・いじめ防止基本方針を見直し、いじめ見逃しゼロへの取組を継続する。 ・問題行動による学習妨害や暴力行為に対して組織的な解決が迅速にできるように努める。	B 4	子どもたちが自信をもって明るく取り組んでいるよう、家庭環境も配慮しながら接していただけるようお願いいたします。
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:児童の割合 8割以上 3:児童の割合 7割以上 2:児童の割合 6割以上 1:児童の割合 6割未満	4: 3: 2: 1:	【これまでの取組】 ・生活指導夕会を活用し、教員が子ども一人一人をよく見て、小さい変化に気づけた。 ・問題が起きた時には、即座にいじめ防止対策委員会を開き、組織的な取組を行った。 ・配慮を要する児童に対しては、月1度校内委員会を実施したり、毎週生活指導夕会を開催し、教職員で共通理解を図ったりして改善するよう組織的な取組を行った。 ・学校生活調査等を活用し、児童理解に努め、集団の状況と一人一人の子どもの様子を把握する。 ・生活指導主任を中心に、迅速に教職員で情報を共有し組織的に生活指導改善を図った。 ・不登校の児童が学校に来れるように教室や人の配置を行い、不登校の解消がみられた児童もいた。 【今後の改善策】 ・自己に否定的な気持ちの児童が37.2%存在する。自己肯定感を高めるための具体的な計画をたてていく。 ・いじめ防止基本方針を見直し、いじめ見逃しゼロへの取組を継続する。 ・問題行動による学習妨害や暴力行為に対して組織的な解決が迅速にできるように努める。	C 0	自己肯定感を高めるため、1人1人がそれぞれの場で小さくても成功体験を積み重ねることができるよう取り組まれていました。要配慮への対応と全体への取り組みとのバランス、負担についてPTAでも協力していきたいと思います。
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	4:児童の割合 8割以上 3:児童の割合 7割以上 2:児童の割合 6割以上 1:児童の割合 6割未満	4: 3: 2: 1:	【これまでの取組】 ・生活指導夕会を活用し、教員が子ども一人一人をよく見て、小さい変化に気づけた。 ・問題が起きた時には、即座にいじめ防止対策委員会を開き、組織的な取組を行った。 ・配慮を要する児童に対しては、月1度校内委員会を実施したり、毎週生活指導夕会を開催し、教職員で共通理解を図ったりして改善するよう組織的な取組を行った。 ・学校生活調査等を活用し、児童理解に努め、集団の状況と一人一人の子どもの様子を把握する。 ・生活指導主任を中心に、迅速に教職員で情報を共有し組織的に生活指導改善を図った。 ・不登校の児童が学校に来れるように教室や人の配置を行い、不登校の解消がみられた児童もいた。 【今後の改善策】 ・自己に否定的な気持ちの児童が37.2%存在する。自己肯定感を高めるための具体的な計画をたてていく。 ・いじめ防止基本方針を見直し、いじめ見逃しゼロへの取組を継続する。 ・問題行動による学習妨害や暴力行為に対して組織的な解決が迅速にできるように努める。	D 0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対して必要会議を実施しなかった。 2:必要な事案に対して必要会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4	4:児童の割合 8割以上 3:児童の割合 7割以上 2:児童の割合 6割以上 1:児童の割合 6割未満	4: 3: 2: 1:	【これまでの取組】 ・生活指導夕会を活用し、教員が子ども一人一人をよく見て、小さい変化に気づけた。 ・問題が起きた時には、即座にいじめ防止対策委員会を開き、組織的な取組を行った。 ・配慮を要する児童に対しては、月1度校内委員会を実施したり、毎週生活指導夕会を開催し、教職員で共通理解を図ったりして改善するよう組織的な取組を行った。 ・学校生活調査等を活用し、児童理解に努め、集団の状況と一人一人の子どもの様子を把握する。 ・生活指導主任を中心に、迅速に教職員で情報を共有し組織的に生活指導改善を図った。 ・不登校の児童が学校に来れるように教室や人の配置を行い、不登校の解消がみられた児童もいた。 【今後の改善策】 ・自己に否定的な気持ちの児童が37.2%存在する。自己肯定感を高めるための具体的な計画をたてていく。 ・いじめ防止基本方針を見直し、いじめ見逃しゼロへの取組を継続する。 ・問題行動による学習妨害や暴力行為に対して組織的な解決が迅速にできるように努める。		
		自己肯定感を上げるために特別活動や教科指導子ども自身が自分の成長に気付くような指導を行った。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	4:児童の割合 8割以上 3:児童の割合 7割以上 2:児童の割合 6割以上 1:児童の割合 6割未満	4: 3: 2: 1:	【これまでの取組】 ・生活指導夕会を活用し、教員が子ども一人一人をよく見て、小さい変化に気づけた。 ・問題が起きた時には、即座にいじめ防止対策委員会を開き、組織的な取組を行った。 ・配慮を要する児童に対しては、月1度校内委員会を実施したり、毎週生活指導夕会を開催し、教職員で共通理解を図ったりして改善するよう組織的な取組を行った。 ・学校生活調査等を活用し、児童理解に努め、集団の状況と一人一人の子どもの様子を把握する。 ・生活指導主任を中心に、迅速に教職員で情報を共有し組織的に生活指導改善を図った。 ・不登校の児童が学校に来れるように教室や人の配置を行い、不登校の解消がみられた児童もいた。 【今後の改善策】 ・自己に否定的な気持ちの児童が37.2%存在する。自己肯定感を高めるための具体的な計画をたてていく。 ・いじめ防止基本方針を見直し、いじめ見逃しゼロへの取組を継続する。 ・問題行動による学習妨害や暴力行為に対して組織的な解決が迅速にできるように努める。		
ブラン 4 体力増進の向上と健康の	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:児童アンケート「すずんで体を動かしている」と肯定的な回答をした児童の割合と保護者アンケート「学校は、健康教育を推進し、体力の向上に努めている。」で肯定的な回答をした保護者の割合	4: 3: 2: 1:	【これまでの取組】 ・「早寝、早起き、朝ごはん」月間では自分の生活習慣を見直し、望ましい生活習慣や健康的な生活習慣が身に付いているかどうか、家庭で実践し、取り組んだ。 ・持久走練習や長縄大会を通して、全校で体を動かす機会を計画的に設定したことで、体力の向上に努めている。 ・コロナ禍以降、初めて給食試食会を実施できた。 ・コーディネーショントレーニングを全学年で実施し健康向上の意識改善につなげた。 【今後の改善策】 ・体力向上は、児童が自らの体力を把握し、課題意識をもって運動に取り組ませる。そのためにはいろいろな運動経験をさせることが必要である。 ・「早寝早起き朝ごはん」だけでなく、健康な生活を続けていくためには保護者の協力が必要ため、保護者や地域にも学校の取組が伝わるよう学校HPを充実させる等の工夫をする。	A 5	朝ごはん何食べた?と聞くと、しっかり食べられていない子もいるようでした。給食は本当においしいです。中休み、昼休みに先生たちと一緒に元気に体を動かしているのを見て、外遊びが好きな子どもたちがたくさんいるんだなと思いました。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	4:児童アンケート「すずんで体を動かしている」と肯定的な回答をした児童の割合と保護者アンケート「学校は、健康教育を推進し、体力の向上に努めている。」で肯定的な回答をした保護者の割合	4: 3: 2: 1:	【これまでの取組】 ・「早寝、早起き、朝ごはん」月間では自分の生活習慣を見直し、望ましい生活習慣や健康的な生活習慣が身に付いているかどうか、家庭で実践し、取り組んだ。 ・持久走練習や長縄大会を通して、全校で体を動かす機会を計画的に設定したことで、体力の向上に努めている。 ・コロナ禍以降、初めて給食試食会を実施できた。 ・コーディネーショントレーニングを全学年で実施し健康向上の意識改善につなげた。 【今後の改善策】 ・体力向上は、児童が自らの体力を把握し、課題意識をもって運動に取り組ませる。そのためにはいろいろな運動経験をさせることが必要である。 ・「早寝早起き朝ごはん」だけでなく、健康な生活を続けていくためには保護者の協力が必要ため、保護者や地域にも学校の取組が伝わるよう学校HPを充実させる等の工夫をする。	B 3	健康、体力の取り組みは一人ずつ、家庭の状況もまた異なると思うので、それぞれに応じた指導をお願いします。
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	4:8割以上 3:7割以上8割未満 2:6割以上7割未満 1:8割以上	4: 3: 2: 1:	【今後の改善策】 ・体力向上は、児童が自らの体力を把握し、課題意識をもって運動に取り組ませる。そのためにはいろいろな運動経験をさせることが必要である。 ・「早寝早起き朝ごはん」だけでなく、健康な生活を続けていくためには保護者の協力が必要ため、保護者や地域にも学校の取組が伝わるよう学校HPを充実させる等の工夫をする。	C 0	大谷グロブやバランビアンとの授業なども一層活用して、健康意識向上につなげて欲しいと思います。